

若者が戻りたくなる地域づくり

2年1組 伊勢本 蓮 2年1組 清家 琴音 2年2組 堀川 幸音
指導者 清家 祥

1 課題設定の理由

現在、宇和島市では人口減少や少子高齢化が進んでいる。愛媛県の人口推移予測を調べてみると2025年現在約125万人いる人口が2030年には約120万人、2050年には約94万人という予測が出ている。日本の総人口は2050年に約9515万人となる予測であり、この場合愛媛県の人口割合は全国で約1%になるということである。（図1）

宇和島市には、大学はないため進学をする学生は必然的に一度、宇和島から離れることとなる。そこから愛媛県や宇和島市へ戻ってくる割合は極めて低くなっている。地理的条件は変えることは難しいため、自分たち高校生の目線から若者が戻りたくなる地域づくりを行いたいと考え研究を開始した。

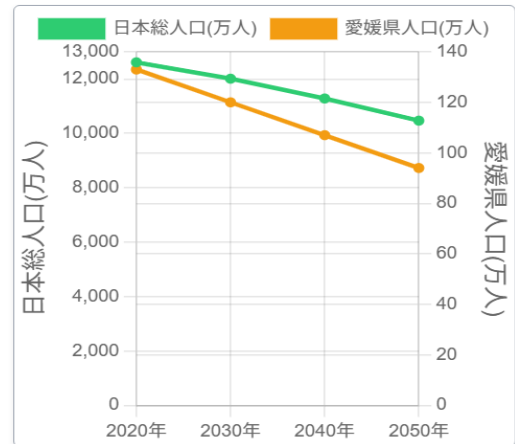


図1 人口の推移

2 仮説

(1) 進学先の仮説

市内に大学がないため、進学先の多くは県外になると考えられる。進学先は交通の便が良い四国内の大学が多く、大学数が豊富で、就職機会も多い中国・近畿地方が続いていくのではないかな。

(2) 地元に帰ってくる理由についての仮説

- ①リモートワークやテレワークの増加により都会でなくても働ける場は増加しているため、若者は、仕事と生活のバランスを取りやすい環境を求めて地元へ帰るのではないかな。
- ②家族の存在や地元への安心感などから地元に帰ってくるのではないかな。

3 研究の手法

- (1) 愛媛県内の高校生の進学先の県と宇和島東高校の受験生の受験した大学の県内・県外割合を調べる。
- (2) 宇和島東高校の生徒を対象とした愛媛県や宇和島へ現状戻りたいと思っているかのアンケートを行い、現状の把握を行う。

学校	地域	人数	割合
国公立・私立	愛媛県外	299人	約78%
短大・専門	〃	29人	約84%
国公立・私立	愛媛県内	105人	約22%
短大・専門	〃	11人	約16%

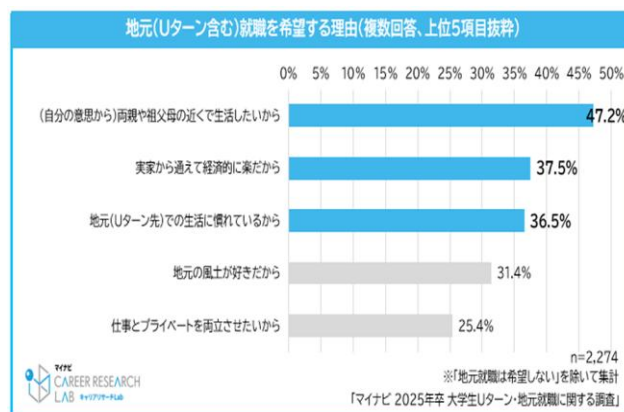
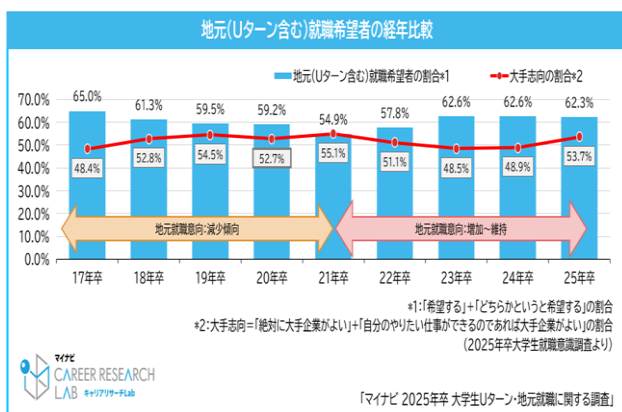
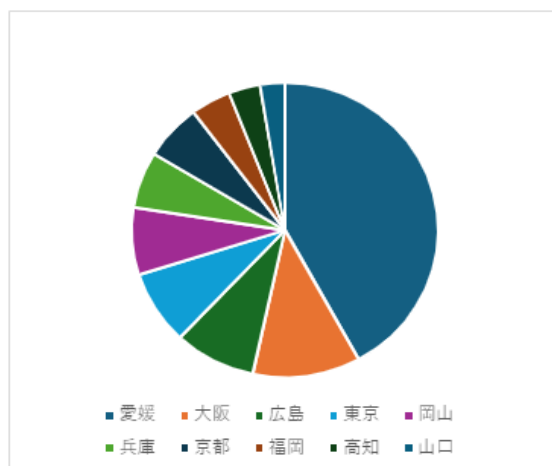
学校	地域	人数	割合
国公立・私立	愛媛県外	251人	約78%
短大・専門	〃	60人	約84%
国公立・私立	愛媛県内	153人	約22%
短大・専門	〃	7人	約16%

学校	地域	人数	割合
国公立・私立	愛媛県外	255人	約78%
短大・専門	〃	58人	約84%
国公立・私立	愛媛県内	72人	約22%
短大・専門	〃	11人	約16%

宇和島東高校生の大学・短大・専門学校受験地域（左上 R5、右上 H29、左下 H25）（図2）

4 結果・考察

宇和島東高校生の大学・短大・専門学校受験地域を3年分を調べてみると、愛媛県外の受験地域が60%から80%を占めていることが分かった。(図2)このことから、東高生は地元を離れての進学を選択する人が多く、そのまま就職をする可能性も高まるため、将来的に地元に戻ってくる人は少ないのではないかと考えた。一方で、愛媛県内高校生の大学への進学者数は愛媛県が42.0%、愛媛県外が58.0%と若干愛媛県外が多いことが分かった。さらに、県外の地方の割合を調べてみると四国地方が45.3%、近畿地方が23.7%、中国地方が18.6%となっていることが分かった。(右図)このことから、仮説通り、物理的・心理的に近く家族の支援が受けやすく、交通アクセスのよい四国地方が最も高い割合となり、続いて、大学数が豊富で就職機会の多い近畿地方、中国地方と続いた。



地元就職希望割合 (図3)

地元就職希望理由 (図4)

図3より地元就職希望者は2017年から2021年卒にかけては減少しているが、2022年以降は増加傾向に転じ、直近では6割近くの新卒者が地元就職を希望していることが分かった。また図4より、地元就職理由は、家族志向や通勤面での生活環境への慣れが挙げられている。地元就職は生活の安定やワークライフバランス重視と強く結びついていることが分かった。

5 まとめと今後の課題

宇和島東高校生へのアンケートを行い、生徒が地元就職についてどのように考えているのかや地元に戻ってきたい思いはあるのかなどもっと身近な人々の意見を聞きたい。また、この結果を参考に具体例も高校生目線で考え地域活性化につなげていきたい。

参考文献

- ・愛媛県ダッシュボード
- ・旺文社
- ・マイナビキャリアリサーチラボ
- ・宇和島東高校進学のおすすめ